

モニタリング結果の評価

〔川本委員〕

- ① 揮発性有機化合物（VOC）は、水に対し 1000 mg/l のオーダーで溶解度をもっているため、雨水により溶出している状態が続いていると思われる。
- ② ダイオキシン類（DXN）は、固相への吸着性が非常に強いので、現地での物理的（人為的）攪拌や表層流出がない限り、水中濃度が大きく上昇することはないと推測される。
- ③ 鉛については、酸性雨などにより溶出しやすくなると思われる。
- ④ 総じて、廃棄物量は多いが、多量の土壌によって投棄地内に保持されているとみなすことができると思われる。

〔福士委員〕

堰堤ヒューム管浸出水（ア-3）から事業場浸出水（ア-1）やラグーン末端の水（ア-4）を經由して遠瀬水源湧水（ア-14）や放流支川下流（ア-17）へ至る経路に関して評価する。

(1) 経時変化

① 堰堤ヒューム管（ア-3）

- ・多くの揮発性有機化合物（VOC）、鉛、ホウ素やダイオキシン類は、環境基準より高い値を示している。
- ・BOD、COD、SS、全窒素等は、通常の河川水等に比べかなり高い値を示している。
- ・ベンゼンを除けば、各項目とも次第に濃度が低下する傾向にある。

② 遠瀬水源湧水（ア-14）

- ・ヒ素が若干検出されているが、健康項目すべてが環境基準を満たしている。
- ・塩化物イオン、電気伝導度が通常の河川水等に比べてやや高い値を示している。

(2) 水質変動

経時変化だけを追っただけでは、汚染拡散の可能性や機構を評価できない。

- ① 鉛については、ア-3からア-17にかけて濃度が低下している。
- ② 塩化物イオン、電気伝導度は、上流から下流に向けて濃度が低くなっている傾向が見られる。
- ③ トリクロロエチレン以下の揮発性有機化学物質については、ア-1以下の下流で検出されていない。